

地域防災拠点等でのドラム缶等による灯油、軽油の貯蔵・取扱い  
仮貯蔵・仮取扱い実施計画書【例3】

1 目的

震災時により地域防災拠点等において、非常用発電機及び暖房用燃料として、灯油、軽油をドラム缶で貯蔵し、金属製携行缶、灯油用ポリエチレン缶（以下「携行缶等」という。）に小分けするために必要な事項を予め計画します。

2 仮貯蔵・仮取扱いをする場所

宮崎市〇〇町〇〇番〇〇号 〇〇小学校運動場（〇〇地域防災拠点）

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

合計 約176平方メートル（16メートル×11メートル）

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類・品名・数量

第4類第2石油類（灯油・軽油） 2,000リットル

6 指定数量の倍数

2倍

7 貯蔵及び取扱いの方法

- (1) 200リットルの金属製容器（ドラム缶）により貯蔵する。
- (2) 保有空地进行を3メートル確保する。
- (3) 貯蔵場所と携行缶等に小分けする場所に3メートルの隔離をとる。
- (4) 高温になることを避けるため、必要に応じて通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設ける。
- (5) 第5種消火設備 10型ABC粉末消火器 2本を設置する。
- (6) 標識、掲示板を設置し、関係者に次の事項について、注意喚起を行う。

「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「危険物の類・品名・数量（倍数）」、「火気厳禁」

8 安全対策

- (1) ドラム本体、手動ポンプ等のアースを確保する。
- (2) 危険物の取扱いは原則として危険物取扱者免状保有者が行う。

9 管理状況

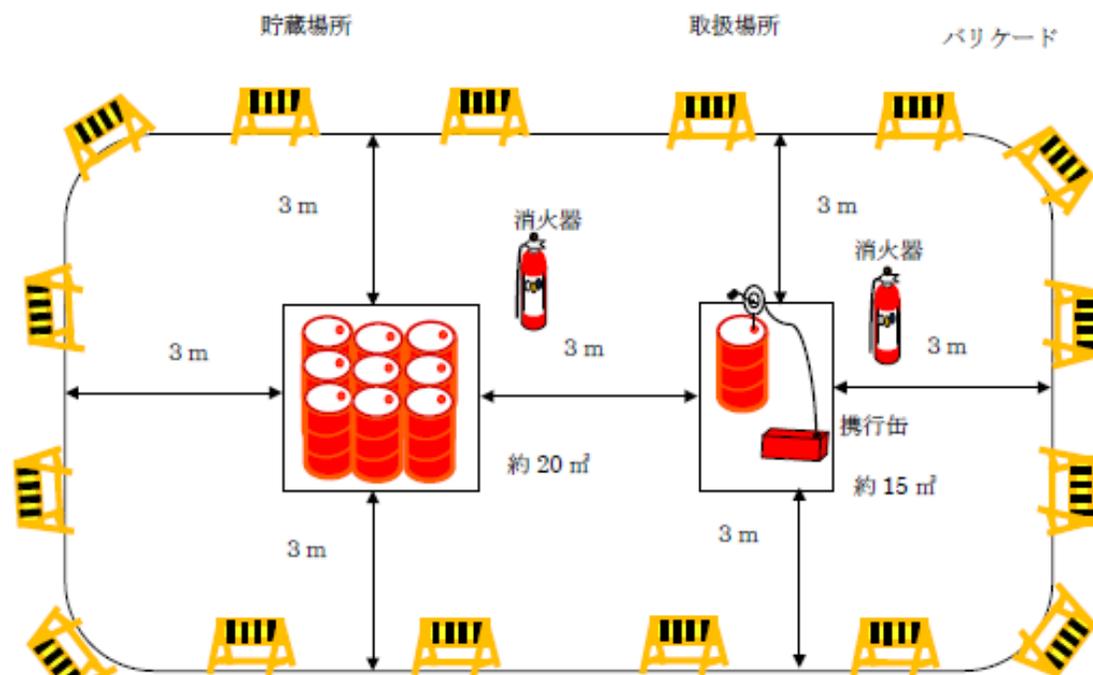
- (1) 保有空地の周囲にバリケード等を設け、空地进行を確保する。
- (2) 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

10 その他必要な事項

携行缶等への小分けはこの場所以外では行わない。

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（地域防災拠点等のドラム缶による燃料の貯蔵、取扱い）

1 仮貯蔵・仮取扱い詳細レイアウト



- 注意事項
- ① 保有空地进行を3メートル確保
  - ② 保有空地的の周囲にバリケード等を立て空地进行を確保する。
  - ③ ドラム缶、給油ポンプにアースを取る。
  - ④ ABC粉末消火器（10型）を2本設置する。
  - ⑤ 危険物は、貯蔵場所に金属製容器（ドラム缶）にて貯蔵する。（最大10本）
  - ⑥ 取扱い場所に置くドラム缶は1本とする。
  - ⑦ 貯蔵場所のドラム缶が高温となることを避けるため、必要に応じ通気性を確保した日除けを設ける。
  - ⑧ 危険物の取扱いは通風・換気の良い場所で実施する。
  - ⑨ 標識・掲示板を設置し関係者に注意喚起を行う。

2 標識・掲示板（例）



危険物仮貯蔵・仮取扱所  
 危険物の類・品名・数量（倍数）  
 ・第4類 第2石油類 軽油・灯油  
 2,000リットル（2倍）  
 管理者 ○○ ▽◇○

- ・大きさ、縦30センチメートル以上、幅60センチメートル以上（縦書きでも可）
- ・「火気厳禁」は、字は赤色、文字は白色
- ・「危険物仮貯蔵・仮取扱所」は、字は白色、文字は黒色